

「平成 25 年度北海道地方における環境影響評価終了案件
フォローアップ調査等業務報告書」より作成

1. 北海道地方の環境影響評価で取り扱われることの多い生物

北海道地方の自然環境特性を示す資料として、ここでは、北海道で法手続きが終了した環境影響評価で取り扱われていることの多かった生物種について、環境影響評価図書における取扱い状況の概要を整理した。

表1 手続きが終了した環境影響評価で取り扱われた生物種の概要(影響予測)

区分	分類			件数	備考
	目	科	種		
哺乳類	コウモリ目	ヒナコウモリ科	ニホンテングコウモリ	1	
		-	コウモリ類	1	
	ネズミ目	リス科	エゾモモンガ	1	
	ネコ目	クマ科	エゾヒグマ	1	
		イヌ科	キタキツネ	1	
		イタチ科	エゾクロテン	1	
	ウシ目	シカ科	テン類	1	
	計	エゾシカ	1		
		8種	8件		
鳥類	タカ目	タカ科	ミサゴ	1	
			オオタカ	1	
			クマタカ	1	
	キツッキ目	キツッキ科	クマガラ	3	
	計	4種	6件		
両生類	有尾目	サンショウウオ科	エゾサンショウウオ	3	
	計	1種	3件		
昆虫類	トンボ目	イトトンボ科	カラカネイトトンボ	1	
	コウチュウ目	ホタル科	ヘイケボタル	1	
		計	2種	2件	
植物	球果植物目	マツ科	アカエソマツ	1	緑化材として
	ブナ目	カバノキ科	ハンノキ	1	緑化材として
			ダケカンバ	1	緑化材として
		ブナ科	カシワ	1	緑化材として
			ミズナラ	1	緑化材として
	タデ目	タデ科	オオイタドリ	1	緑化材として
	ナデシコ目	ナデシコ科	エゾマンテマ	1	
	キンポウゲ目	キンポウゲ科	キタミフクジュソウ	1	
			フクジュソウ	1	
	フウチョウソウ目	アブラナ科	ハクサンハタザオ	1	
	バラ目	バラ科	エゾシモツケ	1	
			ホザキシモツケ	1	
	ムクロジ目	カエデ科	エゾイタヤ	1	緑化材として
	ミズキ目	ミズキ科	ハナイカダ	1	
	サクラソウ目	サクラソウ科	サクラソウ	1	
	リンドウ目	リンドウ科	ホソバツルリンドウ	1	
	アカネ目	アカネ科	エゾムグラ	1	
	ツツジ目	ハナシノブ科	ミヤマハナシノブ	1	
	マツムシソウ目	スイカズラ科	ネムロブシダマ	1	
	キク目	キク科	エゾヨモギ	1	緑化材として
	ユリ目	ユリ科	カタクリ	1	
			サルトリイバラ	1	
	イネ目	イネ科	チカラシバ	1	
			ザサ類	1	緑化材として
	ガマ目	ミクリ科	タマミクリ	1	
	クサスギカズラ目	ラン科	エビネ	1	
	計	26種	26件		

件数とは、各生物種を対象に影響予測が行われていた事業案件数を示す。

表2 手続が終了した環境影響評価で取り扱われた動物の概要(環境保全措置)

保全措置の課題	影響要因	環境保全措置の区分	環境保全措置の概要	対象種と分類群
重要な種及びその生息地の保全	工事	低減	繁殖期における建設機械の稼働規制、及び車両運行ルートへの規制	コウモリ類(哺乳類)、オオタカ・ハイタカ(猛禽類)
		低減	工事施工ヤード内の樹林を極力伐採しない。繁殖期における工事を極力避ける	希少猛禽類、クマゲラ(鳥類)
		低減	仮設の仕切り壁を設ける	ミサゴ(猛禽類)
	存在・供用	低減	近隣公園を設置し、市街地との間に緩衝域を設ける。	哺乳類、鳥類
		低減、代償	現況緑地などの保全、または緑地の創出	哺乳類、鳥類、昆虫類
		代償	ボックスカルバート等による移動経路の確保	動物
		低減	変更区域の縮小を図る	エゾヒグマ・エゾモンガ・エゾクロテン・小型イタチ類(哺乳類)、クマゲラ(鳥類)、エゾサンショウウオ(両生類)
		低減	工事道路に当たって既存道路を活用し、ルートや道路幅員を制限する	哺乳類、鳥類、昆虫類
		低減、代償	現況緑地などの保全、または緑地の創出	哺乳類、鳥類、昆虫類
		低減、代償	移動空間、移動経路の確保	ニホンテングウコウモリ・エゾクロテン(哺乳類)
	工事、存在・供用	低減、代償	表流水の確保	ヘイケボタル(昆虫類)
		低減、代償	樹林の改変を最小化、巣箱の設置	エゾモンガ(哺乳類)
		代償	卵塊の移動	エゾサンショウウオ(両生類)
		低減	水環境の保全	カラカネイトンボ(昆虫類)
代償		動物の横断対策	エゾシカ(哺乳類)など	
生息環境の保全	存在・供用	低減	土地の改変面積及び樹木の伐採範囲を最小限にとどめ、既存植生の保存に努める	陸生動物
		低減	冷却水の取放水対策	海生生物
	工事、存在・供用	低減、代償	工事道路、側溝及び排水路にスロープを設ける	小動物
		代償	改変裸地の緑化を行う	昆虫類
		低減	地形や植生の改変を最小化	動物(哺乳類、鳥類、両生類)

表3 手続が終了した環境影響評価で取り扱われた植物の概要(環境保全措置)

保全措置の課題	影響要因	環境保全措置の区分	環境保全措置の概要	対象種と分類群
重要な種及び群落の保全	存在・供用	低減、代償	近隣公園を設置し、市街地との間に緩衝域を設ける。	重要種及び群落
		低減	盗掘防止看板の設置	サクラソウ、ミヤマハナシノブ
		代償	移植	ハクサンハタザオ、ハナイカダ、カタクリ、サルトリイバラ、チカラシバ、タマミクリ、エビネ、キタミフクジュソウ、エゾシモツケ、ホザキシモツケ、ホソバツルリンドウ、エゾムグラ、ネムロブシダマ、フクジュソウ
生育環境の保全	存在・供用	低減	変更区域の縮小を図る	植生全般、特にエゾマンテマの生息地
		代償	緑化の実施	オオイトドリ、エゾモギ、ササ類、ダケカンバ、ハンノキ、アカエゾマツ
		低減	土地の改変面積及び樹木の伐採範囲を最小限にとどめる	植物
		代償	適切な緑化を行う	カシワ、エゾイタヤ、ミズナラなど
	工事、存在・供用	低減	地形や植生の改変を最小化	植物